

群 教 セ	G02 - 03
	平 28. 261 集
	社会一中

学習した内容を活用して時代を大観し表現する 社会科学学習指導の工夫

—歴史的事象を整理して、知識を再構成する

『時代マップ』の活用を通して—

特別研修員 山梶 誉夫

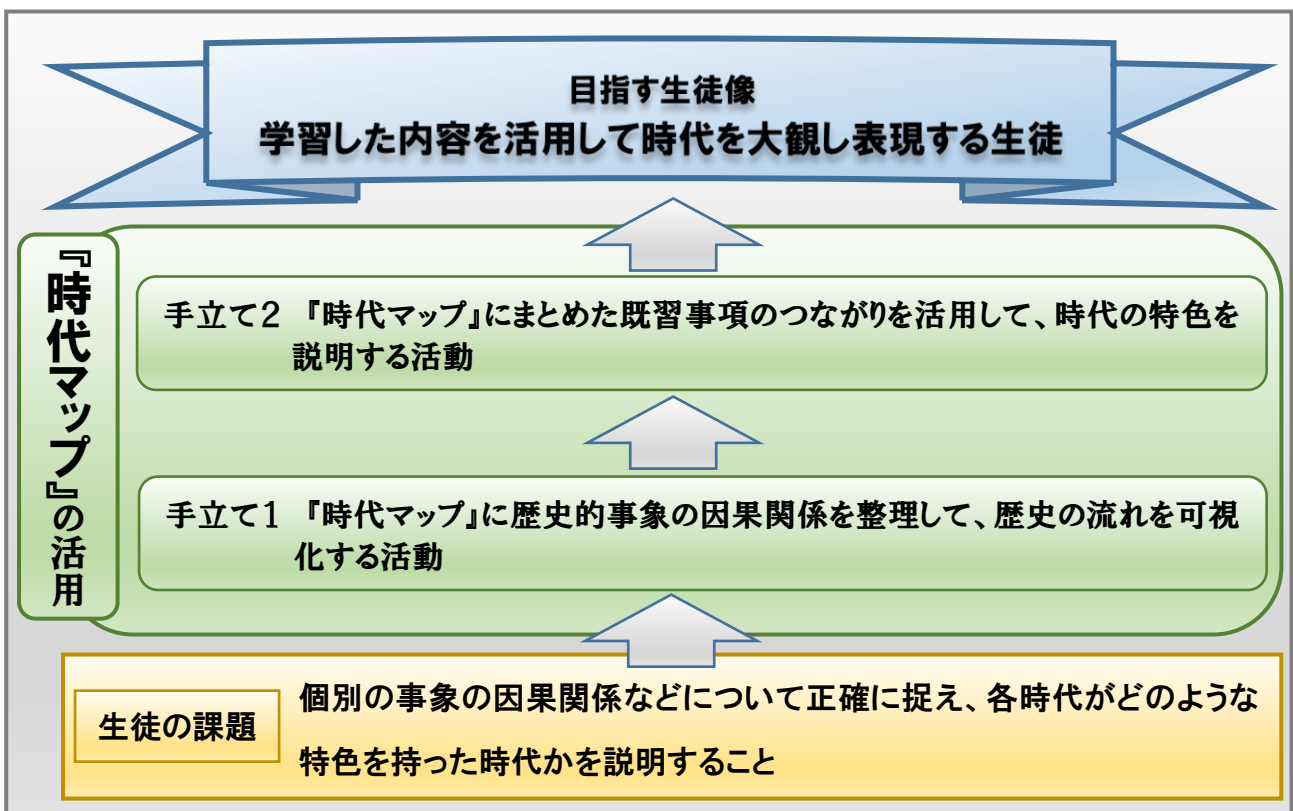
I 研究テーマ設定の理由

中学校学習指導要領社会の歴史的分野における目標では、「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせる」と示している。これを受け、歴史の捉え方について「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色を捉えさせる」として設定している。また、はばたく群馬の指導プランでは、群馬県の社会科の課題として、「比較・関連付けて考え、社会的事象の特色や意味を理解すること」を挙げている。このことから、歴史的事象を個別的に理解するのではなく、それらを比較・関連付けながら時代の特色を捉えていくことが求められていると考える。

本校の生徒の多くは、個別の歴史的事象の知識や概念については習得している。しかし、個別の事象の因果関係を正確に捉え、各時代がどのような特色を持った時代かを説明できる生徒は少ない。そこで、単元全体の活動の中で、歴史的分野の目標とする「我が国の歴史の大きな流れ」について理解させるために、『時代マップ』に個別の歴史的事象を比較・関連付けながら整理する活動や、再構成した知識を活用しながら自分の考えを表現する活動を通して、「時代を大観し表現する力」を身に付けさせることが大切であると考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

学習した内容を活用して時代を大観し、その時代の特色を自分なりに表現できるように、思考ツールとして『時代マップ』を作成し、指導計画の中で段階的に位置付けた。

『時代マップ』の構造

- 横軸に時間の流れ、縦軸に「政治」「外交」「社会・生活」「文化」の四観点を設定したシートに、年表形式で歴史的事象を配置する。
- 1単位時間ごとのまとめを書き込む欄を設け、学習した内容を振り返る。
- 時代の特色（単元を貫く学習課題の答え）を書き込む欄を設け、再構成した知識を文章化する。

歴史的事象を整理して再構成するための活動として、『時代マップ』を活用しながら二つの活動を設定する。

手立て1 『時代マップ』に歴史的事象の因果関係を整理して、歴史の流れを可視化する活動の設定

手立て2 『時代マップ』にまとめた既習事項のつながりを利用して、時代の特色を説明する活動の設定

手立て1は、これまで学習した内容の1単位時間ごとのまとめを参考に、重要だと思う歴史的事象を付せん紙に書き出し、『時代マップ』上に時間の流れを意識しながら貼る活動を設定する。また、歴史的事象間の因果関係などを見だし、マップ上に矢印を書き込む。各時間で学習した内容を年表中に表現することで、歴史的事象を時間の流れで捉える。つながりのある歴史的事象を年表中で比較・関連付けることで、歴史的事象の因果関係を意識する。

手立て2は、その時代の特色を生徒の言葉で表現して『時代マップ』に書き込み、手立て1で整理した付せん紙上の歴史的事象を振り返りながら、自分の考えを他の生徒に説明する。各時間の学習のまとめや、年表中の各歴史的事象のつながりなどを参考にすることで、時代全体の大まかな歴史の流れを捉え直すことにつながる。

このように、『時代マップ』の活用を通して、個別の歴史的事象を比較・関連付けながら整理して、既習の知識を再構成していくことや、再構成した知識を文章にまとめたり、説明したりすることは、「時代を大観し表現する力」を身に付けることにつながるものであると考えた。

III 研究のまとめ

1 成果

- 手立て1として、『時代マップ』を通して歴史の流れを可視化する活動を設定したところ、時間の流れや因果関係を意識し、1単位時間ごとに学習した歴史的事象を、単元全体の歴史の大きな流れの中で捉え直すことが可能になった。
- 手立て2として、手立て1で再構成した知識を活用して、時代の特色を説明する活動を設定したところ、課題に対する考えの根拠に具体的な歴史的事象の例を挙げられるようになり、歴史の大きな流れについて、歴史的事象の因果関係を基に時間の流れを意識して説明できた。

2 課題

- 1単位時間ごとの授業のめあての設定やまとめ方によって、手立て1において『時代マップ』上に歴史的事象の因果関係を見いだせる生徒と見いだすことができない生徒の差が生まれた。単元を貫く学習課題を中心とした単元全体を見通した指導計画と、それに基づいた1単位時間ごとの授業の構想や進め方について改善を行い、生徒が常に単元を貫く学習課題を意識しながら学習活動を進めていくことが必要である。
- 手立て1の活動で『時代マップ』に生徒がどのような整理をしたかによって、手立て2の活動において、課題に対する答えを自分の言葉で表現する際の表現の幅が変わってしまう。手立て1の場面での学級全体と、支援を必要とする生徒に対しての指導それぞれについて、適切な支援を行うことで、生徒自らの言葉で時代の特色をまとめられるようにすることが必要である。

実践例

1 単元名 武家政権の成長と東アジア

2 本単元について

本単元は、『中学校学習指導要領解説社会編』の「歴史的分野」2内容(3)中世の日本のア「鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる」を受けて授業を構成したものである。中世の日本では、武士の支配が次第に広まるとともに、武家政治の展開を背景とした新たな文化の展開などの動きがみられた。本単元は、特に11世紀～13世紀の歴史を扱い、日本の中世の特色を、武家政治の成立に着目して学習することをねらいとしている。

生徒には、武家政治の特色を考え、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、それらを背景とした禅宗文化などの新たな文化が生まれていったことを時代の特色として捉えることができるようにする。この時期に成立した武家政治が、その後東アジアとのかかわりの中で政治的、文化的な影響を受けながら、近世社会を形成していくことから、本単元の学習は重要であると考えられる。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	鎌倉幕府の成立を通して、武家政治の特色を考え、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、それらを背景とした禅宗文化などの新たな文化が生まれていったことを時代の特色として理解することができる。	
評価規準	関心・意欲・態度	中世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、中世の文化遺産を大切にしようとしている。
	社会的な思考・判断・表現	中世の歴史的事象から課題を見出し、中世の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を表現している。
	資料活用の技能	年表や歴史地図、映像など中世に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などに表したりしている。
	社会的事象についての知識・理解	中世の特色などを、世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	・武士はどのようにして現れ、成長していったか興味を持つ。
	第2時	・平氏はどのように実権をにぎり、どのような政治を行ったか理解する。
課題追究	第3時	・鎌倉を中心とした武家政権は、どのような特徴を持っていたか資料から読み取る。
	第4時	・鎌倉時代にはどのような特色を持った文化が展開したか理解する。
まとめ	第5時	・鎌倉時代の特色をまとめる。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全5時間計画の第5時に当たる。第1時に、単元を貫く学習課題として、『武士による支配はどのようにして確立したのだろうか?』という課題を提示した。生徒は、課題に対するまとめを、鎌倉時代の大まかな流れとして捉えた。そこで、次の二つの活動を設定して手立てを具体化した。

手立て1

『時代マップ』に歴史的事象の因果関係を整理して、歴史の流れを可視化する活動の設定

「武士による支配の確立」を『時代マップ』のゴールに設定し、それまでの過程として各歴史的事象を付せん紙に書いてマップ上に表現する。また、事象間のつながりについても、「武士による支配の確立」につながるものを意識することで、手立て2の活動につながる。

手立て2

『時代マップ』にまとめた既習事項のつながりを活用して、時代の特色を説明する活動の設定

手立て1を踏まえて、単元を貫く学習課題である『武士による支配はどのようにして確立したのだろうか?』という課題に対する考えをまとめ、説明する。

4 授業の実際

第1時に11世紀～13世紀を中心に時代を区切った『時代マップ』を配付し、単元を貫く学習課題を提示した。また、第4時までは、授業ごとに色の異なる付せん紙を配り、第5時のまとめに向けて、授業ごとに重要だと思った歴史的事象を付せん紙に書いておくように、事前の準備を行った。

本時には、これまでの学習活動のまとめとして、単元を貫く学習課題を確認した上で、本時の学習課題「武士による支配はどのようにして確立したのか、学習したことを活かしてまとめよう。」を提示した。

(1) 各時間の学習のまとめの確認

『時代マップ』にあらかじめ書いておいた、第4時までの授業ごとの学習のまとめを確認した。学習のまとめは、文章の一部が空欄となっていて、そこに当てはまる授業ごとの重要語句を、穴埋め形式で生徒が解答する(図1)。こ

①財産である土地を守るため戦いを職業とする武士があらわれた。天皇の子孫である源氏と平氏が武士の棟梁となった。

生徒が穴埋め

図1 『時代マップ』学習のまとめ

こでは生徒を指名し、空欄を埋めた状態の完成した文章を読むことで解答を全体で共有した。

(2) 手立て1 『時代マップ』に歴史的事象の因果関係を整理して、歴史の流れを可視化する活動

各生徒が持ち寄った付せん紙を、班ごとに配付したA2サイズの『時代マップ』に貼り直した。その際、横軸である時間の流れや、縦軸として示されている「政治」「外交」「社会・生活」「文化」の四観点にも注意しながら、どこに位置付けるかを考えながら貼った。中には、武士の起こりについて「政治」と「社会・生活」のどちらに貼ったら良いか迷った生徒がいた。その後、付せん紙の歴史的事象の因果関係などを考えて矢印でつないだ。さらに、手立て2の活動が行いやすいように、矢印でつながれた歴史的事象がどのような関係かをマップ上に補足して書き足した。

その結果、「社会・生活」の項目の「武士団」、「源氏と平氏」などを記述した付せん紙から、「保元・平治の乱」などを記述した付せん紙を矢印でつなぎ、「活躍」などと補足して書き足して歴史的事象の因果関係を整理する生徒が見られた(図2)。

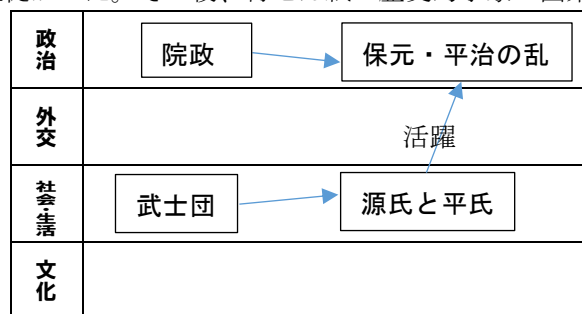


図2 『時代マップ』に整理した生徒の記入例

(3) 手立て2 『時代マップ』にまとめた既習事項のつながりを活用して、時代の特色を説明する活動

手立て1で完成した『時代マップ』を基に、学習課題である「武士による支配はどのようにして確立したのか」について、班ごとの考えをまとめた。まとめの言葉を考える際、①武士がどのようにして現れたのか、②武士はどのようにして政治に関わるようになったのか、③武士はどのようにして全国をまとめたのか、という三つの観点で箇条書きにした(表1)。発表する際には、学級全体を三つのグループに分けて、グループ内で他の班に向けて発表する形式にした。

表1 『時代マップ』にまとめた生徒の記入例

①武士がどのようにして現れたのか
・ 荘園の増加により土地を守る武士が現れた
・ 財産の土地を守るために武士が生まれた
②武士はどのようにして政治に関わるようになったのか
・ 院政をめぐる争いに棟梁である源氏と平氏が活躍した
・ 平清盛が保元・平治の乱に勝ち、権力をふるった
③武士はどのようにして全国をまとめたのか
・ 鎌倉幕府を開き、御恩と奉公の主従関係で武士をまとめた
・ 承久の乱後、六波羅探題で朝廷を監視し支配を確立した

その結果、手立て1で整理した歴史的事象の因果関係を基に、個別の事象同士を比較・関連付け自分の考えを文章化してまとめていた。また、本時の感想では、個別の歴史的事象を武士による支配の確立という学習課題に結び付けて知識を再構成していく記述が見られた(表2)。

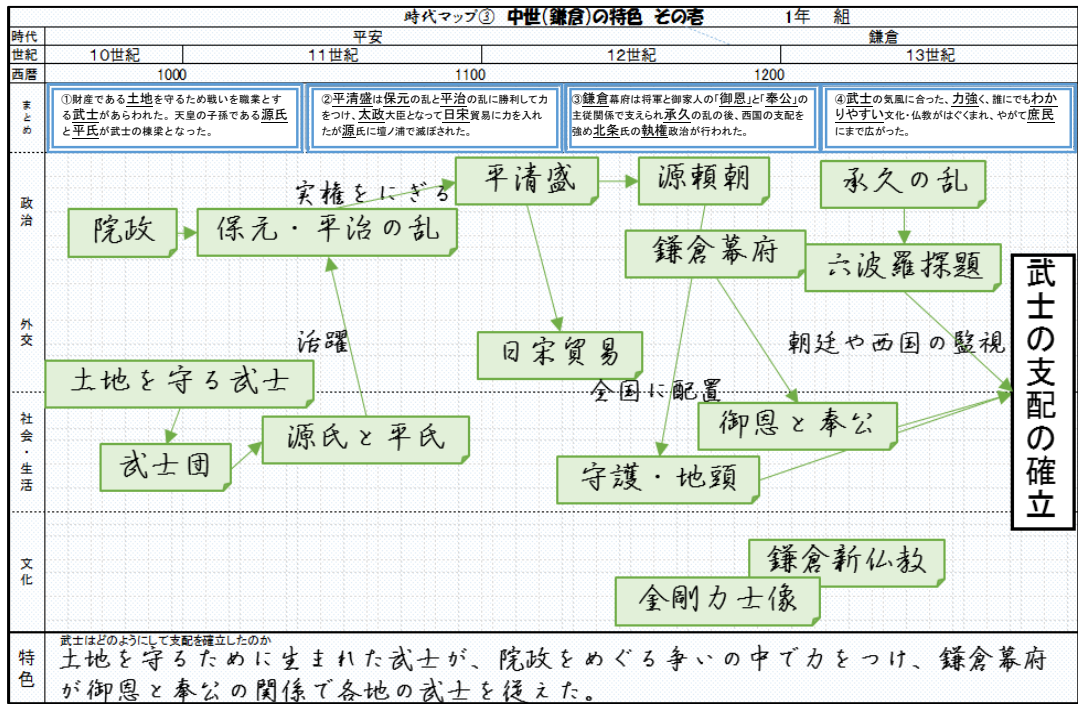


図3 「時代マップ」完成図例

(4) 本時のまとめ

全体に発表する代表の班を指名し、教師が生徒の発表中の言葉を拾いながら板書してまとめ、その内容を全体で共有した。

表2 本時の感想例

- ・最初はあやふやな支配がどんどん確立していくことに気付いた。
- ・武士による支配が確立した理由として御恩と奉公の主従関係や守護・地頭などがあることがよく分かりました。
- ・平清盛をはじめ、頼朝が御恩と奉公で支配を強め、北条氏が御成敗式目や六波羅探題で支配を確立させていったことによってできた。

5 考察

手立て1において、武士の起こりから支配の確立までを、『時代マップ』にまとめたことにより、武士の成長の様子を時間の流れで捉えられるようになった。また、付せん紙を四つの観点に分けて貼ったことにより、「社会・生活」の変化によって生まれてきた武士が「政治」に関わっていく様子を、一目で確認できたことは、歴史の大きな流れを捉えていく上で、効果的であったと考えられる。その一方で、時間の流れや四観点の使い分けは、支援を必要とする生徒も多かった。他班の意見を板書で例示する支援を取り入れたものの、それによって活動時間が減ってしまったり、多様な意見が出なくなったりしたので、支援の方法については、改善する必要があることが明らかになった。手立て2において、手立て1で整理した歴史的な事象を活用することで、支配の確立の過程を、具体的な歴史的な事象を用いて説明することができた。しかし、歴史的な事象の羅列に終始するところも見られたので、各事象の因果関係を捉えながら、つながりを活用して文章化し説明するための支援の工夫も必要であった。また、文化史の位置付けなど、単元計画全体の中で、1単位時間の授業をどのように進めていくか、授業者が明確な意図を持って授業を構想していくことが必要であることも課題となった。

本研究を通して、思考ツールとして『時代マップ』(図3)を取り入れ、歴史的な事象の因果関係を整理したり、時代の特色を説明したりする活動を行うことで、生徒は学習した内容を活用して時代を大観し、その時代の特色を自分なりに表現することができた。『時代マップ』については、他の時代を扱う単元や、複数の時代にわたってより大きな時代の流れや移り変わりを捉えなおす活動についても有効であると考えられる。